

第16回日本歯科東洋医学会九州支部講演会

—日常臨床に東洋医学の叡智を—

特別講演

1 陰陽五行の理解と五行を応用した咬合治療の実際 11:00~13:00

堀内 信隆 堀内歯科クリニック 院長

2 癌はどうすれば苦痛なく治癒するか 14:00~16:00

堀田 忠弘 堀田医院 院長

九州支部理事講演 9:10~10:50

歯科の口腔疾患に対する鍼灸治療と漢方薬治療について

九州医療専門学校柔道整復科学科長 小原 浩司

受講料

当日受付(弁当なし)：歯科医師 10,000 円 学生・パラデンタルスタッフ 5,000 円

事前登録(弁当あり)：歯科医師 9,000 円 学生・パラデンタルスタッフ 5,000 円

事前登録締切：8月10日(期日までの振込を事前登録とします)

振込の後、下の申込書を0940-34-3172までファックスしてください

振込先：西日本シティ銀行 春日原支店 普通預金口座 1807081

日本歯科東洋医学会 九州支部会計 根木 一

整理の都合上、振込は法人名でなく個人名でお願いします

福岡県歯科医師会館

2016年 8月21日(日) 9:00~16:00

日歯生涯研修ICカードをお持ちください

-----切り取り線-----

参加申込書(事前登録用) 締切 8月10日 Fax 0940-34-3172

フリガナ		
氏名	電話	Fax
	E-Mail	
住所 〒		
勤務先	電話	Fax
勤務先住所 〒		
振込金額	円 本紙は一人、一枚の記入をお願いします(コピー使用可)	

Faxの前に必ず振込をお済ませ下さい。振込がない場合には、事前登録の扱いとはなりませんのでご注意ください。

問合せ先:

九州支部事務局
大林歯科小児歯科医院

大林 京子

〒811-3425

福岡県宗像市日の里

6-16-7

電話 0940-37-3418

FAX 0940-37-2089

陰陽五行の理解と五行を応用した 咬合治療の実際

神奈川県 堀内歯科クリニック
院長 堀内 信隆



東洋医学の基礎中の基礎「陰陽五行」は医学のみならず、易学や哲学、歴史や民俗学といった広範囲に渡る学問の基礎でもあります。しかし、その実態はなかなか理解されていないのが実情です。というのも、現代唯物科学を学んできた我々にとって、五行は「象徴性」

を扱うという最もナイーブな所から成り立っているからだと思えます。私の著書である『だるまんの陰陽五行』シリーズでは、そこを乗り越えるために、全ジャンルを網羅して象徴性を理解するためのお手伝いをさせて頂いております。たとえば肝は「木」の配当ですが、これを易に当てはめると「風」や「雷」、民俗学で言うなら「竜」、方位で言うなら「東」、人生で言うなら「若者」となり、若々しく伸びあがっていくエネルギーを意味するのが「木」であると理解できます。だから肝臓も若々しくエネルギーに満ちた臓器であると理解され、だから「なるほど沈黙の巨人といわれるのだ」という具合に肝臓のパワフルさが理解されてくるのです。

また、私が日常の診療で行っている五行を応用した咬合治療についてもお話させていただきます。五行の相剋関係が単なる勝ち負けの関係ではなく、ものごとが発展していくための基準であるということが理解できると、咬合に関わる顎位の意味合いもより具体的に理解され、臨床での目標が見えやすくなるものだと思います。

略歴：

日本大学歯学部卒

東京で福岡歯科勤務の後、横浜で開業

昭和 63 年「みがけ！デンたん」（おかひろみ共著、クインテッセンス出版）

平成 4 年 「ビジュアルセミナー臨床咬合学入門」（寺西邦彦共著、クインテッセンス出版）

平成 21 年「だるまんの陰陽五行」シリーズ刊行開始（三冬社）

癌はどうすれば苦痛なく治癒するか

京都府 堀田医院
院長 堀田 忠弘



一般的なガン治療では苦痛を伴うことが多く、早期ガンを除いて治癒することが少ないのが現状です。ガンは悪いものでガン細胞を無きものにしようとする治療が主流ですが、苦痛なく穏やかに治癒に向かわせる自然療法を求める人が増えています。

ガンを苦痛なく治す、あるいはガンがあっても何の苦痛もなく生活が送れるようになるためには、ガン細胞はどんなものか、何故できるのか理解しておく必要があります。正常の細胞は栄養素を受けとり小胞体で蛋白質を、ミトコンドリアで酸素を使ってエネルギーを作り、老廃物を排出することで生命活動を営んでいます。

ところが大量の活性酸素、血流障害、慢性感染（口腔内・腸内の細菌叢の乱れ）、ストレス、有害物の蓄積、必須栄養素の不足、食べ過ぎ、飲みすぎなど様々な要因が重なるとどうなるでしょう。細胞は生命活動ができなくなり、臓器は機能不全に体は命を維持するのが困難になります。この危機を脱するために過酷な状況でも生きていける細胞へ変わる必要性に迫られます。その解決策としてとられたのがガン化という手段なのです。したがってガン治療は、細胞環境をよくすること、ガン細胞を攻撃しないことが基本になります。活性酸素の消去、循環改善、感染症対策、解毒促進、栄養バランス、腸内細菌叢の適正化、自律神経の調整などによって自己治癒力を高めていきます。毎日の食生活では有害物、ウイルスなど病原体を含む食品の除去をチェックします。するとガン細胞は徐々に元の正常細胞に戻っていきます。

略歴：京都府立医科大学卒業、同大学にて免疫学研究。病の原因をみつけ治療することを最優先し、西洋医学、東洋医学、細胞環境デザイン学、バイオレゾナンス医学、宝石光線遠隔療法、カラー治療、テラヘルツ療法などを統合的に組み合わせて治療にあたっている。人間の潜在能力を目覚めさせることに興味をもち、これまで何度となくインド、ネパール、チベットなどにでかけ修行した経験をもつ。医学博士、日本内科学会認定医、日本テレセラピー研究会会長